



土木学会功績賞を受賞して

前田 幸雄*

第87回土木学会総会(平成13年5月)において2000年度の土木学会功績賞を授与され、誠に嬉しく、大変光栄に思っている。学会の表彰規定第3条によると、功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発展、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する、と示されている。私の場合は、構造工学の国の内外での発展に大きく貢献をしたことが認められたことによると思われるが、これまでの受賞者の業績を調べてみると、どれもすばらしいものがある。

私が大阪大学で研究を開始して以来、退官後の近畿大学、構造工学研究会、そして大日本コンサルタントにおいて継続して研究してきたが、その都度の共同研究者、各種委員会で一緒にした研究者らとの研究討議に基づく成果と励ましによるものであって、心からお礼を述べたい。

私が構造工学の研究を大阪大学で開始した頃は、薄肉鋼構造の盛んな時で、鋼とコンクリートの合成構造などは単純合成桁橋が主であって魅力の乏しいものであった。大阪大学での私の講座である応用構造学講座に属する若手研究者らと共に、鋼構造の研究として、鋼桁のウェブの初期不整による疲労問題の解析的および実験的な研究を行うとともに、本州四国連絡橋・第三ルートの最初の橋梁となったアーチ形式の大三島橋の解析と実験、さらにその実用化への展開を行ってきた。これらの研究成果は機会のあるごとに外国の学会や研究会に発表してきたが、国の内外の創造的な活動までには至らなかった。

他方、大阪大学名誉教授の安宅 勝先生や大阪市立大学の橋 善雄教授の指導を得て、鋼とコンクリー

トの合成構造の新しい研究活動を展開する機会があって、若い研究者と共に新しい研究をめざした。例えば、それまでの古典的な単純合成桁橋の他に、建築や橋梁に適用できる合成構造システムに興味を持ち、大いに意見を交換し、特に橋梁では疲労荷重の影響の解析的、実験的研究に土木学会の専門研究委員会に意見を求めた。そして学会の構造工学委員会の中に鋼とコンクリートの合成構造小委員会を新しく設けて研究開発と成果の評価を討議して、次第に構造工学の中で重要な分野として確立させるべく努力をしてきた。その結果、委員の方々の国際的な活動も貢献して、国内のみならず外国でも高く評価されるに至った。例えば、日本と米国の研究交流とセミナーが始まり、爾来定着して4年に一回の全米工学財団主催の国際会議に発展し、筆者らを始めとする日本の研究成果を発表するとともに、諸外国の研究者らとの研究交流が活発となり日本の研究レベルが大いに向上した。特に日本での独自研究であったが止めのせん断継手機構における疲労問題、プレストレスしない連続形式の合成桁の解析的および実験的成果と実構造物に対する応用は高く評価されるに至った。

ドイツのポッフム大学のRoik教授らのグループとの討議、イギリスのワーリック大学のR. P. Johnson教授との討議、アメリカのテキサス大学、キャンザス大学、バージニア大学の研究者との交流が盛んになり、合成構造に関する研究は古典的な学問でなく、近代的な工学として発展することとなった。わが国の建築の研究者との交流にもつとめ、国際合成構造研究協会(ASCCS)を設立するに至った。現在、新しい道路建設において、合理化構造として各種の合成構造が取り入れられていることを嬉しく思っている。

終わりにあたり、私の受賞が構造工学の分野で努力している研究者のはげみになることを祈り、また、私の研究の発展を理解して支えてきた合成構造の研究者の方々に心から感謝申し上げる次第である。



* Yukio MAEDA
1923年3月生
1947年北海道大学大学院特別研究生
前期修了
現在、無役、大阪大学名誉教授、
工学博士(東大)、橋梁工学・構造
工学
TEL 0797-22-5736
FAX 同上